

2023 年 9 月 29 日

各位

名古屋市中区栄三丁目 33 番 13 号
株 式 会 社 中 京 銀 行



＜中京＞ポジティブ・インパクト・ファイナンスの契約締結について

株式会社中京銀行（頭取 小林 秀夫）は、ワイクリード株式会社（本社名古屋市瑞穂区、代表取締役 吉田 英晃）と、＜中京＞ポジティブ・インパクト・ファイナンスの契約を締結しましたので、お知らせいたします

当行は、これからもお客さまの多様化する資金調達ニーズに応え、SDGs の趣旨に賛同するお客さまとともに持続可能な社会の実現を目指してまいります。

記

1. 融資概要

契約締結日	2023 年 9 月 29 日（金）
融 資 金 額	200 百万円
融 資 期 間	7 年
資 金 使 途	運転資金

2. ワイクリード株式会社の概要

本店所在地	名古屋市瑞穂区中根町 4 丁目 21 番地
代 表 者	吉田 英晃
事 業 内 容	自動車燃料供給システム部品の製造 自動車センサー部品の製造 精密機械部品の製造
設立年月日	1962 年 12 月 19 日
電 話 番 号	052-892-2955

3. 特定されたインパクトと測定する KPI（2030 年に向けた目標）

（1）平等な職場環境づくりと従業員の健康増進
①健康経営優良法人の継続認定取得
②2030 年 7 月期までに女性従業員比率を 50%以上にする（2023 年 7 月期：43%）
（2）カーボンニュートラルへの取り組み
①2030 年 7 月期の CO2 排出量を 2019 年 7 月期比で 50%以内とする

(3) 製品供給を通じた経済への貢献

- ① 毎期売上高を前期比 5%以上増加させる
- ② 工程内不良率を 0.5%未満にする

【記念盾贈呈式の様子】



株式会社中京銀行
野並支店長 原田 光紀

ワイクリード株式会社
代表取締役 吉田 英晃

4. ポジティブ・インパクト・ファイナンスについて

国際的な金融原則の枠組みに沿った融資商品で、お客さまの企業活動が環境・社会・経済に及ぼす影響を包括的に分析・評価（以下、「インパクト評価」）します。インパクト評価により特定されたポジティブな影響の増大とネガティブな影響の低減に向けた取り組みに対して目標（以下、「KPI」）を設定し、モニタリングを実施することで、当該取り組みを継続的に支援いたします。

KPI の達成に向けて取り組む過程を対外的に発信することで、お客さまの社会的評価の向上が期待されます。

本商品では当行がインパクト評価とモニタリングを実施します^(※1)。

(※1) 当行のポジティブ・インパクト・ファイナンス実施体系は、株式会社格付投資情報センター（R&I）より、国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）が制定したポジティブ・インパクト金融原則（PIF 原則）への適合についてセカンドオピニオンを取得しています。

以 上

「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」評価書
～ワイクリード 株式会社～

2023 年 9 月 29 日
株式会社中京銀行
営業推進部
ソリューション営業グループ

目次

はじめに	2
1. 企業概要	2
(1) 会社概要	
(2) 企業沿革	
(3) 認証取得一覧	
(4) ビジネスモデル図	
(5) 経営理念	
2. 事業内容	6
(1) 優れた品質を生む、先進の生産システム	
(2) ミクロン単位の徹底した品質	
3. ESG・SDGs の取組	8
(1) 環境負荷低減活動	
(2) IT セキュリティの強化と DX 化	
(3) 地元人材・女性人材の採用活動強化	
(4) 従業員の健康増進と福利厚生の実施	
4. インパクトの特定	10
(1) バリューチェーン分析	
(2) インパクトマッピングによるインパクト分布	
① 当社の川上における事業のインパクト	
② 当社における事業のインパクト	
③ 当社の川下における事業のインパクト	
(3) 特定したインパクト	
(4) 国内のインパクトニーズ	
(5) 特定したインパクトに対する中京銀行の方向性との確認	
5. 測定する KPI	15
6. インパクト管理体制	16
7. モニタリング方法	16
8. 総括	16

はじめに

株式会社中京銀行は、ワイクリード株式会社の事業活動が「環境」・「社会」・「経済」に及ぼすインパクトを分析・評価しました。この分析、評価は、国際環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）が提唱した「ポジティブインパクト金融原則」及び、環境省が策定した「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、中小企業に対するファイナンスに適用しています。

<融資条件概要>

融資形態	証書貸付
融資金額	200,000,000 円
資金使途	運転資金
融資・モニタリング期間	7 年

1. 企業概要

（1）会社概要

会社名	ワイクリード 株式会社
設立年月日	1962 年 12 月 19 日
資本金	60,000,000 円
代表取締役	代表取締役社長 吉田 英晃
事業内容	自動車燃料供給システム部品の製造 自動車センサー部品の製造 精密機械部品の製造
本社所在地 工場所在地	名古屋市瑞穂区中根町 4 丁目 21 番地 名古屋市緑区鳴海町長田 55 番地
従業員数	129 名（パート含む）
決算月	7 月

（2）企業沿革

1956 年 4 月	名古屋市瑞穂区雁道町にて吉田金属製作所として創業し、精密機械部品の製造にあたる
1956 年 6 月	映写機、撮影機等の部品の生産を始める
1958 年 6 月	自動車のキャブレター部品の生産を始める
1962 年 2 月	瑞穂区中根町に本社を全面移転する
1962 年 12 月	個人経営から資本金 1,500 千円にて、株式会社吉田金属製作所として改組設立
1964 年 1 月	自動制御部品の生産を始める

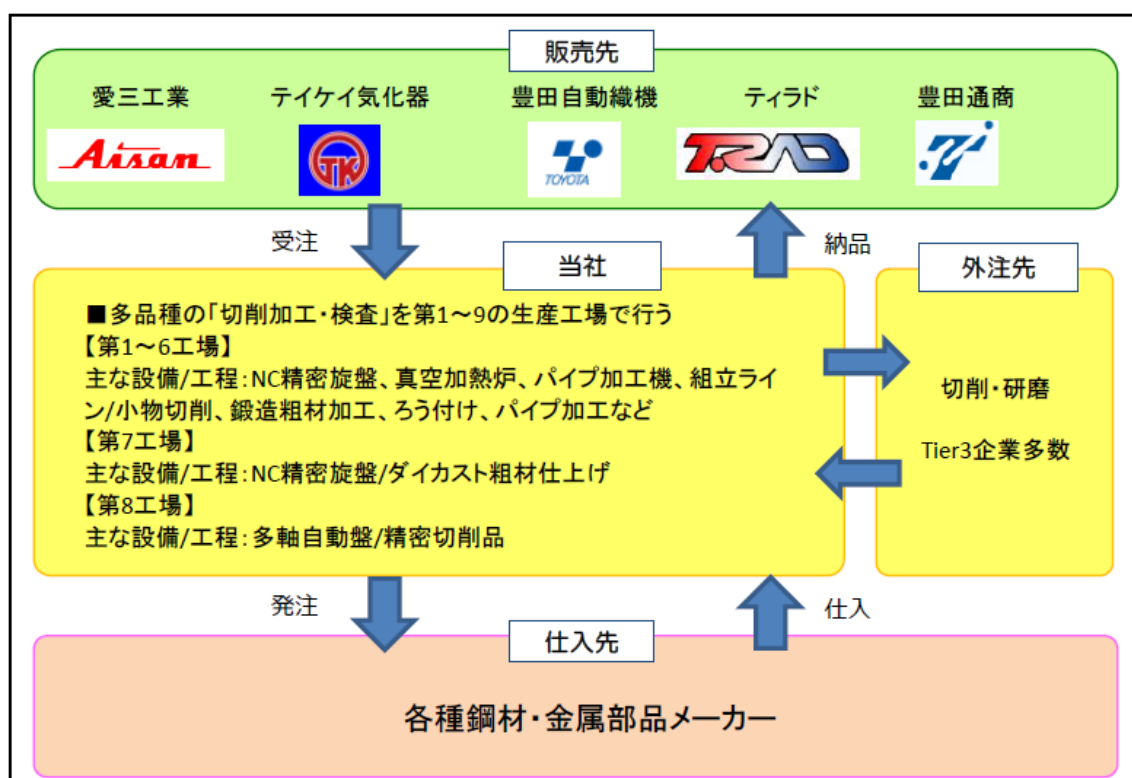
1966 年 10 月	オートバイキャブレター部品の生産を始める
1970 年 2 月	名古屋市緑区にて緑工場（自動機工場）を建設し、生産を開始する
1970 年 9 月	資本金を 3,000 千円に増資する
1971 年 9 月	資本金を 6,000 千円に増資する
1972 年 9 月	資本金を 9,000 千円に増資する
1973 年 4 月	プラグ部品の生産を始める
1974 年 11 月	資本金を 15,000 千円に増資する
1975 年 5 月	カッターナイフを生産開始する
1982 年 4 月	ラジエーター部品の生産を始める
1986 年 1 月	空調関係部品の生産を開始する
1988 年 7 月	緑工場隣接地に第 2 工場を建設する
1989 年 10 月	フォークリフト部品の生産を開始する
1990 年 8 月	第 3 工場を建設する
1993 年 2 月	第 4 工場を建設する
1994 年 9 月	第 5 工場操業開始する
1995 年 11 月	第 6 工場を建設する。同工場にてインジェクター工程稼働開始
1996 年 1 月	資本金を 30,000 千円に増資する
2000 年 6 月	二代目代表取締役役に吉田英晃が就任
2003 年 3 月	ISO9001 認証取得
2004 年 12 月	本館および第 7 工場を建設する
2005 年 8 月	ISO14001 認証取得
2005 年 10 月	第 6 工場 2 階を増築する
2005 年 11 月	資本金を 60,000 千円に増資する
2008 年 4 月	社名を株式会社ワイクリードに改称する
2008 年 8 月	第 8 工場の操業を開始する
2009 年 10 月	ハイブリッド部品の生産を開始する
2014 年 2 月	F1 工場（冷間鍛造工場）を建設する
2016 年 4 月	社名をワイクリード株式会社に改称する
2016 年 4 月	創業 60 周年
2017 年 4 月	ISO14001 自己適合宣言
2019 年 4 月	KES・EMS スタンダード認証取得
2022 年 3 月	愛三工業株式会社からグローバル協力賞受賞
2022 年 3 月	健康経営優良法人 2022 認定
2023 年 3 月	健康経営優良法人 2023 認定

(3) 認証取得一覧

区分	認証名称	行政区分
品質マネジメント	ISO 9001	(一財) 日本品質保証機構
環境マネジメント	KES・環境マネジメントシステム・スタンダード	(特非) KES 環境機構
	健康経営優良法人 2023	



(4) ビジネスモデル図



(5) 経営理念

経営理念

当社の以下の経営基本方針を貫き、総力を結集し企業繁栄の礎とします。

- お客様第一主義・品質第一主義の徹底を図り、得意先からの大いなる信頼を継続的に確保する
- 生産技術・製造技術の開発研究に努め、固有の技術や生産能力を向上させ、未来永劫の発展につなげる
- 人の「和」を尊び働きがいのある明るい職場、夢のある会社づくり、生きがいのある豊かな生活を全社一丸となって確保する
- 有能な人材を育成し、企業の恒久的繁栄の基礎とする
- 徹底した合理化を行い、コストダウンを追求し、適正なる利潤を確保すると共に事業を通して社会に貢献する

～ 社長メッセージ ～

『素直な心』と『感謝の気持ち』で時代をリード

当社は、自動車用燃料供給システム部品、センサー、ラジエーター、ハイブリッド部品をはじめ各種金属精密加工の専門メーカーとして、より信頼されるものづくりを通して社会に貢献して参りました。

高精度・高品質・低コスト化へと産業界のニーズがますます高まる中で企業力を発揮する原動力は企業の「和」にあると思います。明るく活力のある誠実な社風をベースに、経営のイノベーション、新技術・新工法の開発、生産方式の改善と品質保証のさらなる強化に努め、より磐石な企業体質を構築して参ります。

また企業としての持続性を実現させ、働きがいのあるチームワークのいい職場づくりや生きがいのある豊かな生活を労使一体となり確保いたします。

そしてますますお客様や社会のお役に立てる、愛される企業づくりを推進いたします。みなさまには、一層のご支援とご愛顧を賜われますようお願い申し上げます。



～社名の由来～

「ワイクリード（Y-KLEAD）」は『Y-K』（旧社名：吉田金属製作所のイニシャル）と『LEAD（先導、リード）』を併せた造語です。創業以来 52 年間という永きに亘り、ご愛顧いただきました『ヨシキン』魂をベースに、これからも更に社会に貢献でき、『時代をリード』できるような信頼される企業でありたいとの願いを込めています。

2. 事業内容

自動車用エンジン部品、燃料供給システム部品、センサー、ハイブリット部品等をメインとした各種金属精密加工を行っている。自動車関係のみならず、多様な製品製造を手掛ける。当社製品はミクロン単位の非常に精密なものであり、製造のあらゆる段階で品質設計に基づき、数々の計測機器やコンピュータを駆使して厳重な検査体制を整えている。製造工程においても独自の生産技術を有し、より機能的で合理的な設計を行うことに加え、先進設備の導入も積極的に行うことで、優れた品質維持と生産性向上の両立を図っている。品質の高さもさながら、精密機械部品を大ロット製造できる設備を有する企業は少なく、メーカーニーズに即応できる製造環境を保持していることも取引先からの信頼獲得につながっている。

（1）優れた品質を生む、先進の生産システム

各製造工程は、より優れた品質を確保し生産性を高めるために、当社独自の生産技術により機能的・合理的に設計されている。全 9 工場の生産工場それぞれに製品群に合わせたラインを持ち、切削加工ではNC精密旋盤や多軸カム式自動盤など、塑性加工ではパイプベンダーや端末加工機、研削加工ではセンタレス研削盤の生産設備と真空加熱炉や手動ろう付け、圧入や加締め組立てラインで効率的な作業により品質をつくりこんでいる。一月に 530 万個の製品が出荷される。

また、従業員一人一人の創意工夫が素材から完成品までの随所に生かされ、効率的な作業が行われており、自動車精密部品等、精度の高い品質を実現している。社内で改善事例発表会を開催し、改善事例に対する表彰制度を設けることで、従業員が更なる高みを目指すマインドの醸成にも注力している。

エレクトロニクスやファインセラミックの開発が進む中、産業界を広い視野から見つめ、「次に必要なものは何か」を発想し技術の開発・生産システムの改善や、製品化につなげている。営業部門からの顧客ニーズのフィードバックによる製造部門との連携プレーで技術力向上とメーカーニーズへの的確な対応をスピーディなものとしている。

【当社製品一例】



【工場および設備】



主な機械設備

□ NC自動旋盤	108台
□ 6軸精密自動旋盤	16台
□ 精密自動旋盤	3台
□ 冷間鍛造プレス機	1台
□ 冷間鍛造用潤滑剤塗布装置	1台
□ 精密圧入加締	6台
□ タッピングマシン	2台
□ 真空ロー付炉	1基
□ パイプベンディングマシン	9台
□ パイプ端未加工機	9台
□ センターレス研磨盤	3台
□ ベンチレース	27台
□ ネジ転造盤	8台
□ 孔あけ専用機、ノズル加工専用機、タッピングマシン、 整形フライス盤、フライス盤、ボール盤、パイプ切断 機、超音波洗浄機、その他付帯設備	260台



(2) ミクロン単位の徹底した品質管理

当社が出荷する製品の一つ一つは、寸分の誤差も許されない。製造のあらゆる工程で、社員が責任を全うすることはもちろん、品質設計に基づき、数々の計測機器やコンピュータを駆使した、厳重な検査体制をとっている。全社を挙げての万全の品質管理と厳しいチェック、この不断の努力が製品への信頼を支えている。

工程内不良 0.50%未滿を掲げ、異常時の「止める・呼ぶ・待つ」の行動を徹底するほか、品質保証部のQCパトロール実施による不具合未然防止など、全社を挙げた取組みを行っている。

主な検査設備

□ 投影機	5台	□ 切粉採取装置	1台
□ 硬度計	1台	□ 実体顕微鏡	36台
□ 表面粗さ測定機	1台	□ 輪郭形状測定器	1台
□ 圧漏れ検査機	5台	□ 真円度測定機	1台
□ 全長検査機	2台	□ ダイナスコープ	3台
□ 荷重測定機	2台	□ マイクロスコープ	1台
□ 外径ローラー検査機	3台	□ 画像寸法測定器	1台



3. ESG・SDGs の取り組み

(1) 環境負荷低減活動

①CO₂排出量の削減

当社は、環境負荷低減のための様々な取り組みを実施している。ほぼ全ての照明の LED 化や省エネ業務用エアコンへの切替えを行っており、また機能性・効率性の高い機械設備導入をすることにより、消費電力を抑えている。このほか工程内不良の削減と無駄な待機電力の削減、コンプレッサーの稼働の適正化にも注力しており、電力消費の削減に努めている。

設備ごとの電気使用量を計測して毎月の電力使用量及び CO₂排出量、待機電力を把握し、時系列でデータ管理しながら、削減目標を立てて、評価・分析・削減の為に施策検討を行っている。さらには製品 1 個あたりに必要な電力と CO₂排出量のデータ蓄積も行っている。

②ペーパーレス化と再生紙の利用促進

ペーパーレス化にも取り組んでおり、設計図やファクス受信等を電子化し、なるべく紙を使わないようにすることで、紙の使用量削減を図っている。また、紙を使用する場合にも、極力再生紙を使用又はプリントミスの裏紙を使用することで資源のリサイクルに貢献している。

(2) IT セキュリティの強化と DX 化

IT セキュリティの強化のための取り組みとして、専用のセキュリティシステムにより、外部とのメールの送受信を 24 時間監視し、社内でのウイルス感染防止と万一感染した場合の社外への流出防止の為に対策を実施している。

また、DX 化の取り組みとして、生産管理システムの更新を取引先企業に参加してもらい実施している。なお、当該システムはインボイス制度及び電子帳簿保存法に対応している。また、システムを活用することによりムダ・ムラの発生原因の究明と取引先企業への情報共有を行うことで、工程内の不良削減にも努めている。

(3) 地元人材・女性人材の採用活動強化

当社は地元人材の採用に向けて、地域内（名古屋市緑区・天白区・南区）の高校への採用活動を強化している。特に女性の採用に力を入れており、近年では毎年 2、3 名ずつ高校新卒の女性従業員を増員している。2023 年 9 月期現在では、全従業員 123 名のうち、女性従業員は 53 名（正社員 42 名、アルバイト 11 名）、女性従業員比率 43.1%となっているが、さらなる比率上昇を目指している。

（４）従業員の健康増進と福利厚生 の充実

当社は、従業員の健康診断受診率 100%の維持や禁煙・分煙などの取り組みが評価され、経済産業省より「健康経営優良法人（2022、2023）」の認定を取得している。

保有する 9 つの工場にはすべて冷暖房が完備されており、夏や冬などの時期でも快適な環境で製品を製造することが出来る。また、工場内設備の自動化を進めており、24 時間稼働時に少人数でも製造できる体制を整えている。

年間休日はトヨタカレンダーに準じていて、年間 115 日程度の休日を設定している。また、年間 5 日以上の有給休暇取得を徹底していて、一斉有給取得日を設けるなど数年にわたり達成している。さらには、育児休業・介護休業の制度も整備するなど、従業員のワーク・ライフ・バランスの増進に向けた取り組みにも注力している。

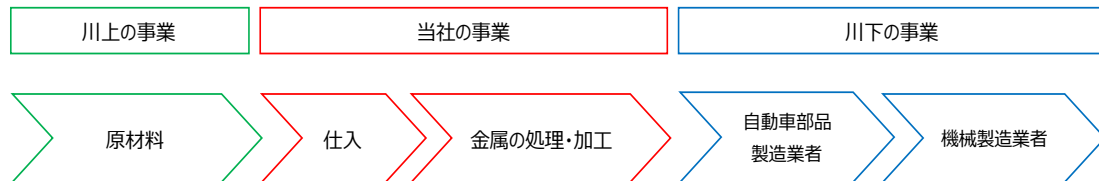
また、社員食堂「吉祥亭」があり、旬の食材や季節の行事、栄養バランスを意識した 3 種類のランチを日替わりで提供している。従業員の負担を考慮して、1 食 350 円と安価な価格設定と食事手当の給付により、従業員は実質 150 円で食事ができる。



社員食堂「吉祥亭」

4. インパクトの特定

(1) バリューチェーン分析



(2) インパクトマッピングによるインパクト分布

先述のバリューチェーン分析の結果をもとに、インパクトマッピングを実施する。

同社グループおよび同社グループの川上・川下の事業を国際産業標準分類（ISIC）上の業種カテゴリに適用させた上、UNEP FI が提供するインパクトレーダーを用いて「ポジティブインパクト」と「ネガティブインパクト」を想定する。

同社の事業については「鉄鋼鑄造業」「金属の鍛造、プレス、打ち抜き及び圧延成形業並びに粉末冶金業」「金属の処理・塗装・機械加工業」を、川上の事業については「第一次鉄鋼製造業」「第一次貴金属・その他非鉄金属製造業」「金属及び金属鉱石卸売業」を、川下の事業については「自動車部品及び付属品製造業」「その他の一般機械製造業」をそれぞれ適用し、インパクトの検証を実施。

分布図中の「赤色」は重要な影響があるカテゴリ、「黄色」は影響があるカテゴリを示す。

①当社の川上における事業のインパクト

国際産業標準分類 インパクトカテゴリ	川上の事業					
	第一次鉄鋼製造業 【2410】		第一次貴金属・その他非鉄金属製造業 【2420】		金属及び金属鉱石卸売業 【4662】	
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ
水						
食料						
住居						
健康・衛生						
教育						
雇用						
エネルギー						
移動手段（モビリティ）						
情報						
文化・伝統						
人格と人の安全保障						
正義・公正						
強固な制度・平和・安定						
水（品質）						
大気						
土壌						
生物多様性と生態系サービス						
資源効率・安全性						
気候						
廃棄物						
包括的で健全な経済						
経済収束						

当社の川上における事業においては、主に環境面のネガティブインパクトが発現する。その中でも特に、「水」、「大気」、「土壌」、「資源効率・安全性」、「気候」、「廃棄物」のカテゴリにおいてネガティブな影響を与えている。

当社が加工を行う製品については最終的に自動車や機械の部品として使用される。その川下の事業者となる自動車メーカーや機械部品メーカーは、独自の環境基準を定め、環境負荷を低減した製造過程の中で作られた材料を使用する方針を掲げている。その取引先からの支給材を使用することで、当社も川上での環境面のネガティブインパクトの低減に貢献している。

②当社における事業のインパクト

国際産業標準分類 インパクトカテゴリ	当社の事業					
	鉄鋼鑄造業 【2431】		金属の鍛造、プレス、打ち抜き及び 圧延成形業並びに粉末冶金業 【2591】		金属の処理・塗装・機械加工業 【2592】	
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ
水						
食料						
住居						
健康・衛生						
教育						
雇用						
エネルギー						
移動手段（モビリティ）						
情報						
文化・伝統						
人格と人の安全保障						
正義・公正						
強固な制度・平和・安定						
水（品質）						
大気						
土壌						
生物多様性と生態系サービス						
資源効率・安全性						
気候						
廃棄物						
包括的で健全な経済						
経済収束						

当社の事業においては、当社製品が自動車産業において不可欠なものであり、産業形成に大きく寄与していることから、「包括的で健全な経済」のカテゴリでポジティブな影響を与えている。

一方で、環境面の「水（質）」「大気」「土壌」「資源効率・安全性」「気候」「廃棄物」においてはネガティブインパクトが発現し、製造プロセスからの汚染等が指摘される。環境面のネガティブインパクトに対し、KESの認証を取得し、環境負荷低減に向けた環境マネジメントシステムを構築している。ほぼすべての照明のLED化や省エネ業務用エアコンへの切替など、機能性・効率性の高い機械設備導入により消費電力を抑える取り組みを行うほか、作業効率を高めるための設備投資を行っている。

また、工程内不良率を低減する取り組みにも注力しており、社内の会議体として「工程内不良率低減委員会」、「品質保証会議」などを定期的開催したり、ペーパーレス化、再生紙利用による紙使用料削減を図るなど、「資源効率・安全性」、「廃棄物」のカテゴリでもネガティブなインパクトを低減させる取り組みを行っている。

「雇用」のカテゴリにおいては、健康経営優良法人認定を取得し、健康経営を推進するほか、食事を安価に提供する社員食堂の運営や、休暇取得制度の充実を図ることで、従業員が働きやすい職場環境づくりに努めている。また、積極的に女性を採用することで女性従業員比率の上昇を図り、女性従業員の活躍の場を広げている。

なお、当社事業とは関連しないカテゴリ「住居」「健康・衛生」におけるインパクトは分析対象外とする。

③当社の川下における事業のインパクト

国際産業標準分類 インパクトカテゴリ	川下の事業			
	自動車部品及び付属品製造業 【2930】		その他の一般機械製造業 【2819】	
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ
水				
食料				
住居				
健康・衛生				
教育				
雇用				
エネルギー				
移動手段（モビリティ）				
情報				
文化・伝統				
人格と人の安全保障				
正義・公正				
強固な制度・平和・安定				
水（品質）				
大気				
土壌				
生物多様性と生態系サービス				
資源効率・安全性				
気候				
廃棄物				
包括的で健全な経済				
経済収束				

当社の川下の事業においては、「移動手段」「包括的で健全な経済」のカテゴリでポジティブインパクトが発現する。当社の製品が自動車部品となり、自動車製造の支えとなることで、人びとの移動利便性向上に貢献している。

（３）特定したインパクト

主要業種の分析結果として、主に社会面と経済面でのポジティブインパクトの拡大、環境面でのネガティブインパクトの低減が期待できる。

社会面では「雇用」のカテゴリにおいて、従業員の健康診断受診率 100%維持、禁煙・分煙などの取り組みを踏まえ、健康経営優良法人の認証を取得しており、女性従業員比率の上昇を目標に掲げ、女性の積極的な採用を行うなどポジティブな影響の拡大に寄与している。

環境面においては、認証取得による環境マネジメントシステムの構築、CO2 削減に向けた設備導入や工程内不良の削減、ペーパーレス化による省資源化に取り組むことで環境負荷低減を図っており、「気候」のカテゴリにおいてネガティブな影響を低減している。

また、当社の加工する製品は自動車産業に不可欠なものであり、製品供給を通じて自動車製造に大きく寄与することで移動利便性向上に貢献し、「移動手段」、「包括的で健全な経済」のカテゴリにおいてポジティブな影響を与えている。

上記分析を踏まえ、KPI を設定する。

(4) 国内のインパクトニーズ

下記に示したのは、「SDGs インデックス & ダッシュボード 2023」を参照したものであり、「SDGs 達成を緑色」、「課題が残っている SDGs を黄色」、「重要な課題を橙色」、「主要な課題を赤色」としている。

「4. インパクトの特定」において中京銀行が特定したワイクリード株式会社のインパクトと対応する SDGs のゴール「5、8、12、13」について、多くが課題のあるゴールに該当するものとなっており、国内のインパニーズと整合的である。



特定したインパクトカテゴリー	対応するSDGs
雇用	5「ジェンダー平等を実現しよう」 8「働きがいも経済成長も」
移動手段、包括的で健全な経済	9「産業と技術革新の基盤をつくろう」
廃棄物、資源効率・安全性	12「つくる責任つかう責任」
気候	13「気候変動に具体的な対策を」

(5) 特定したインパクトに対する中京銀行の方向性との確認

中京銀行は、経営ビジョンにおいて「地域社会に貢献する」ことを「私たちの使命」として定め、本業を通じた環境・社会課題の解決と持続的成長を両立すべく、SDGs や ESG に取り組んでいる。上記分析で特定したワイクリード株式会社の事業活動によるインパクトは、中京銀行のサステナビリティの方針と整合的である。

5. 測定する KPI（2030 年に向けた目標）

中京銀行は特定したインパクトの実現を測定できるようインパクトの内容を整理し、2030 年に向けた目標として KPI を設定した。

（1）平等な職場環境づくりと従業員の健康増進

項目	内容
インパクトの種類	社会面でポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリー	「雇用」
関連する SDGs	 
対応方針	従業員の健康増進と女性従業員の活躍促進
KPI・目標	①健康経営優良法人の継続認定取得 ②2030 年 7 月期までに女性従業員比率を 50%以上にする。 （2023 年 7 月期：43%）

（2）カーボンニュートラルへの取り組み

項目	内容
インパクトの種類	環境面でネガティブインパクトを縮小
インパクトカテゴリー	「気候」
関連する SDGs	 
対応方針	使用電力削減により CO ₂ 排出量の抑制
KPI・目標	①2030 年 7 月期の CO ₂ 排出量を 2019 年 7 月期対比にて 50%以内とする。

（3）製品供給を通じた経済への貢献

項目	内容
インパクトの種類	社会面でポジティブインパクトを拡大、経済面でポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリー	「移動手段」「包括的で健全な経済」
関連する SDGs	
対応方針	当社製品の供給量拡大と不良製品の発生減少
KPI・目標	①毎期、売上高を前期比 5%以上増加させる。 ②工程内不良率を 0.5%未満にする。

6. インパクトの管理体制

ワイクリード株式会社は、最高責任者を吉田社長として組織的にインパクトの管理体制を整備している。また、吉田社長を中心に総務部と連携しサステナビリティ経営の充実に向けた施策の検討及び実施・検証する体制を構築している。

「中京ポジティブ・インパクト・ファイナンス」におけるインパクトについては、吉田社長と長手部長、総務部が中心となり、KPI の達成に向けた施策を展開する。

【管理体制】

最高責任者	代表取締役社長 吉田 英晃
管理責任者	取締役総務部長 長手 哲也
担当部署	総務部

7. モニタリング方法

「中京ポジティブ・インパクト・ファイナンス」で設定した KPI の進捗に対するモニタリングは、インパクト管理担当部署と株式会社中京銀行の担当部署（営業店および営業推進部ソリューション営業グループ）が年 1 回以上の協議にて確認する。

協議において、ワイクリード株式会社は設定した KPI の達成度について情報を開示する。株式会社中京銀行は、達成度・進捗度を確認・検証したうえで、必要があれば KPI の修正を検討し、同社に対して適切な助言を行い支援する。

また、モニタリング実施状況については、株式会社格付投資情報センター（R&I）による包括的な年次レビューを受ける。

8. 総括

本件については、UNEP FI の「ポジティブインパクト金融原則」に準拠したファイナンスであり、ワイクリード株式会社の事業活動がポジティブインパクトの増大およびネガティブインパクトの低減につながることを確認した。また、KPI 達成に向けた取り組みやモニタリングを通じ、持続的な ESG および SDGs への貢献につながる取り組みであることを確認した。

以 上



セカンドオピニオン

中京銀行 ポジティブインパクトファイナンス

2023年9月29日

ワイクリード株式会社

ESG 評価本部

担当アナリスト：新井 真美

格付投資情報センター（R&I）は中京銀行がワイクリードに対して実施したポジティブインパクトファイナンスについて国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）が制定したポジティブインパクト金融原則（PIF 原則）に適合していることを確認した。

R&I は別途、中京銀行のポジティブインパクトファイナンス実施体制が PIF 原則に適合していることを確認している¹。今回のファイナンスに関して中京銀行の調査資料の閲覧と担当者への質問を実施し、実施体制の業務プロセスが PIF 原則に準拠して適用されていることを確認した。

中京銀行が実施するインパクトファイナンスの概要は以下のとおり。

(1) 融資先

社名	ワイクリード株式会社
所在地	名古屋市
設立	1962 年 12 月
資本金	60 百万円
事業内容	自動車燃料供給システム部品・自動車センサー部品・精密機械部品の製造
従業員数	129 名（2022 年 7 月時点）

(2) インパクトの特定

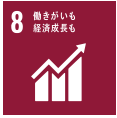
中京銀行は融資先の事業内容や活動地域等についてヒアリングを行い、バリューチェーンの各段階において発現するインパクトを分析し、特定したインパクトカテゴリを SDGs に対応させてインパクトニーズを確認した。また、当社の事業活動が影響を与える地域におけるインパクトニーズとの整合性について、持続可能な開発ソリューションネットワーク（SDSN）が提供する SDG ダッシュボードなどを参照し確認した。

(3) インパクトの評価

中京銀行は特定したインパクトの実現を測定できるようインパクトの内容を整理して KPI を設定した。ポジティブインパクトは SDGs 達成に寄与する取り組みとして追加性があると判断した。また、中京銀行のサステナビリティの方針と整合的であることを確認した。

¹ 2023 年 4 月 21 日付セカンドオピニオン「＜中京＞ポジティブ・インパクト・ファイナンス実施体制」
https://www.ri.co.jp/news_release_suf/2023/04/news_release_suf_20230421_jpn_1.pdf

① 平等な職場環境づくりと従業員の健康増進

インパクトの種類	社会面でポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「雇用」
関連する SDGs	 
対応方針	従業員の健康増進と女性従業員の活躍促進
KPI・目標	- 健康経営優良法人の継続認定取得 2030年7月期までに女性従業員比率を50%以上にする(2023年7月期:43%)

② カーボンニュートラルへの取り組み

インパクトの種類	環境面でネガティブインパクトを縮小
インパクトカテゴリ	「気候」
関連する SDGs	 
対応方針	使用電力削減により CO2 排出量の抑制
KPI・目標	2030年7月期の CO2 排出量を 2019年7月期比で50%以内とする

③ 製品供給を通じた経済への貢献

インパクトの種類	社会面でポジティブインパクトを拡大 経済面でポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「移動手段」「包括的で健全な経済」
関連する SDGs	
対応方針	当社製品の供給量拡大と不良製品の発生減少
KPI・目標	- 毎期売上高を前期比5%以上増加させる - 工程内不良率を0.5%未満にする

(4) モニタリング

中京銀行は融資先の担当者との会合を少なくとも年に1回実施し、本PIFで設定したKPIの進捗状況について共有する。日々の営業活動を通じた情報交換も行い融資先のインパクト実現に向けた支援を実施する。

以 上

【留意事項】

セカンドオピニオンは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。

セカンドオピニオンは、企業等が環境保全及び社会貢献等を目的とする資金調達のために策定するフレームワークについての公的機関又は民間団体等が策定する当該資金調達に関連する原則等との評価時点における適合性に対する R&I の意見です。R&I はセカンドオピニオンによって、適合性以外の事柄（債券発行がフレームワークに従っていること、資金調達の目的となるプロジェクトの実施状況等を含みます）について、何ら意見を表明するものではありません。また、セカンドオピニオンは資金調達の目的となるプロジェクトを実施することによる成果等を証明するものではなく、成果等について責任を負うものではありません。セカンドオピニオンは、いかなる意味においても、現在・過去・将来の事実の表明ではなく、またそのように解されてはならないものであるとともに、投資判断や財務に関する助言を構成するものでも、特定の証券の取得、売却又は保有等を推奨するものでもありません。セカンドオピニオンは、特定の投資家のために投資の適切性について述べるものでもありません。R&I はセカンドオピニオンを行うに際し、各投資家において、取得、売却又は保有等の対象となる各証券について自ら調査し、これを評価していただくことを前提としております。投資判断は、各投資家の自己責任の下に行われなければなりません。

R&I がセカンドオピニオンを行うに際して用いた情報は、R&I がその裁量により信頼できると判断したものではあるものの、R&I は、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。R&I は、セカンドオピニオン及びこれらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。

R&I は、R&I がセカンドオピニオンを行うに際して用いた情報、セカンドオピニオンの意見の誤り、脱漏、不適切性若しくは不十分性、又はこれらの情報やセカンドオピニオンの使用に起因又は関連して発生する全ての損害、損失又は費用（損害の性質如何を問わず、直接損害、間接損害、通常損害、特別損害、結果損害、補填損害、付随損害、逸失利益、非金銭的損害その他一切の損害を含むとともに、弁護士その他の専門家の費用を含むものとし）について、債務不履行、不法行為又は不当利得その他請求原因の如何や R&I の帰責性を問わず、いかなる者に対しても何ら義務又は責任を負わないものとします。セカンドオピニオンに関する一切の権利・利益（特許権、著作権その他の知的財産権及びノウハウを含みます）は、R&I に帰属します。R&I の事前の書面による許諾無く、評価方法の全部又は一部を自己使用の目的を超えて使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）し、又は使用する目的で保管することは禁止されています。

セカンドオピニオンは、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。

【専門性・第三者性】

R&I は 2016 年に R&I グリーンボンドアセスメント業務を開始して以来、多数の評価実績から得られた知見を蓄積しています。2017 年から ICMA（国際資本市場協会）に事務局を置くグリーンボンド原則／ソーシャルボンド原則にオブザーバーとして加入しています。2018 年から環境省のグリーンボンド等の発行促進体制整備支援事業の発行支援者（外部レビュー部門）に登録しています。

R&I の評価方法、評価実績等については R&I のウェブサイト（<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html>）に記載しています。

R&I と資金調達者との間に利益相反が生じると考えられる資本関係及び人的関係はありません。